

## 会 議 概 要

会議名称	平成28年度 第2回伊那市男女共同参画推進会議
日 時	平成28年8月4日(木) 16:00～17:45
場 所	501会議室
欠 席 者	登内 まさ子委員、春日 保委員
会議事項・概要	
1 開 会	原総務部長
2 あいさつ	唐木 孝雄会長
3 協議事項	<p>(1) 第3次男女共同参画フレームについて(質疑応答)</p> <p>事務局：フレームについての説明          今まで各章ごとにおいてある重点項目は、他の章とも重複し、幅広く関わってくるため、各章にはおらずに高い位置から全体的に関わるようにしたいがどうか？</p> <p>委 員：フレーム体系の目標について。目標の中で、特に重点的に取り組むというものか。</p> <p>事務局：体系図全体からの説明。5年間で取り組んでいく具体的な施策が11本。それらをグループごとにすると、施策の柱が3本となる。今回は特色立て、力を入れていきたいところを明確にするために、重点施策として各柱においた。庁内のワーキングチームでも検討した中で、重複するところが多くあるため、それぞれ独立したものでなくて、全体に関わるという3点をよりわかりやすくするために、フレームから抽出した。表現は工夫をしていきたい。サブテーマはイメージ的な捉え方。最終的には、大きなくくりでの目標となるが、市民力の向上としている。</p> <p>委 員：目標が3本あり、それぞれ関わる重点項目として力を入れていくという意味で取り出したということでしょうか</p> <p>会 長：重点施策か項目か、文言も統一していないがどうか。</p> <p>事務局：ここでどちらがよいか、判断できればここでお願いしたいが、検討させていただきたい。</p> <p>委 員：重点項目位置づけなど、体系図がわかりにくい。</p> <p>事務局：表現方法をどうするのがいいかここでは答えかねる。          フレーム部分での定義づけの説明をいれる。フレームに当てはまるものでなく、3点の重点項目は11の施策にまたがり、包含されている。その中で、力を入れていきたい点を示したいということだが、位置づけがわからなくなるので、表現方法については定義づけとともに検討したい。</p> <p>委 員：目標は分かる。重点施策は基本的な方向に含まれるのではないか。それとは別であれば、目標でよいのではないか。</p> <p>事務局：今回力を入れていきたい3点を案としてフレームにいれ、混乱を招いた。計画書の総論で、力を入れていきたい3点につき、表現できたらよいかと思う。体系図の中だとフレームのどこに当てはまるのかという視点に捉われがちとなる。訴えたい点や理解してもらいたい点は</p>

総論でいれていく。

会 長：第2次男女共同参画計画書だと8、9 pの計画体系にあてはまるのか。

事務局：そうである。フレームの中だと位置づけが分からないので、前段の総論の中で社会情勢を踏まえての位置づけ、3つの着目点や文章表現を検討し、記載していきたいと提案させていただいた。

会 長：前段の総論で3点を説明していくということによいか。

## (2) 伊那市の現状と課題からの施策の展開

### 《1章 あらゆる分野における女性の活躍》

委 員：5 P「雇用の場における男女の均等の機会・待遇の確保と働きやすい環境づくり」における施策の展開の3番目。

子育てについての施策は記載があるが、介護についての記載がない。文言をいれたほうがよいのではないか。

事務局：庁内ワーキングの中でも話があり、子育てと介護両面からの対応が図られていないので、例示など入れながら具体的なイメージが湧くように記載したい。

委 員：6 P～7 Pの「農林業、商工業の自営業における女性の参画促進」における施策の展開について追加の提案。要綱の見直しも必要にはなると思うが、女性人材バンクの登録について促進をする文言を入れたらどうか。

事務局：女性人材バンクの関係は、女性の活躍という視点で2 Pの施策の展開として掲載をしてあるが、視点により重なってくる。自営業の関係でどのような活用ができるか内部で検討し、登録促進や活用においての知見の提供だけでなく、もっと実働的に活用できるかどうかなど検討してみる。

会 長：6 P林業の従事者が掲載してあるが、唐突な感じがする。特に伊那市で大事に考えている課題分野なのか。

事務局：農林業の分野は、地方創生の中でも戦略を策定し、重点施策の中に農林業従事者の拡充と女性参画について打ち出されている。農林業に着目したものとなっているが、前提がなく掲載されるとなぜ林業だけとりあげているか分からない。前段の総括で第1次産業の拡充と女性の参画の記載をし、それを受ける施策としたい。

### 《第2章 男女共同参画社会の土台づくり》

委 員：14 P「地域社会での男女共同参画の促進」における施策の展開について、男女共同参画は年代問わずの考えでよいか。子供の教育などに対して、高齢者への取組については記載がなく、基本的な方向から考えると高齢者の活発な社会参画の推進について追加したらどうか。

事務局：1億総活躍の部分も兼ね、多様なライフステージに対応した計画とする。今生き生きしている人だけでなくあらゆる高齢者に配慮した表現が必要かもしれない。章の着眼点に応じて内容を確認し、再度検討する。

《 3章 安心・安全の暮らしの実現 》

委員：防災士は民間の資格だと思う。人材の確保についてここに載せる必要があるのか。また、資格取得には費用もかかると思うが。

事務局：費用がかかる。補助制度があるが、市役所の職員も資格取得に取り組んでいる。資格制度の普及や民間の防災に対するスキルも上がる。敢えて例として挙げるのも啓発周知になる。例示として挙げるが絶対ではないので、誤解を生じないように書きぶりを検討する。

委員：19P～20P「困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備」について、ひとり親についての相談窓口の記載があるが、この章全体に対しての相談窓口の記載が必要ではないのか？

事務局：「困難を抱えた男女が安心して暮らせる環境の整備」の施策の方向であるので、あえて「ひとり親」のことと特化し載せてあるが、特化せず、もっと全体的に広い意味で、捉えられるよう検討したい。

委員：現状と課題について、児童虐待について現状と課題に関わる施策があってもよいのではないか。項目ごとに施策の展開があるところ、相対的などところとある。児童虐待のことが気になる。

事務局：全体的に偏らないで、相対的に施策の展開等を掲載しているが、児童虐待の箇所は、現状と課題、また施策の展開も含め検討する。

会長：22P「生涯を通じた男女の健康支援」が、男女共同参画とあまり結びつかないような気がするが、どのように考えたらよいか。

事務局：案の中では、男女共同参画と直接関係しないようなところもある。男女共同参画社会の実現には、健康がベースになって初めて実現することなので入れてある。

会長：男性と女性では健康面で配慮するところが違う。そのことに触れたいということではないのか。

事務局：前回の計画に基づき入れてあるが、健康支援だけでなく、男性女性の特性に着目し、中身を検討する。

会長：全体を通して何かあるか。

委員：第2次計画の策定の時にも同じような話をされたのではないかと想像している。それだけに男女共同参画については、社会の意志も変わりにくく難しい事だと思うが、形だけではなく、社会の中で機能していくものになったらよい。簡単なものを難しくするのが学問だと聞いたことがあり、感じている。男性と女性がお互い励まし合いながら生きていく、シンプルな事だけれども、それを形にするとこういう形になってしまう。チャンスが平等にある社会であってほしい。男性女性に関わらず、すべての人にチャンスが与えられる中で、活かす人がいてもいいし、要らない人がいてもいい。一つひとつがそんな社会になっていけばよいと感じる。要望としては教育。子供たちが小さな頃から教育を受けていく。将来、機能していくためには、時間がかかるが、小さい頃からの教育を受け、社会が作られ、地域の中で機能していくために、子供達への教育を手厚くしてほしい。すぐには難しくても次世代につなげられるような社会になってほしい。

委員：5P男女の均等な機会・待遇の確保、20p正規雇用率の拡大と安定した雇用において、図書館や司書の例で、免許を取り、資格を持っていても非常勤でしか働けない。市の中でも正

規を増やす努力をしてほしい。企業だけでなく、色々な事業所、行政の中でも取り組んでいただきたい。

会 長：ここでの企業の中とは、市役所も事業所も含まれるということでしょうか。

事務局：5年間の計画以上に先を見据えて、子どもが育っていく広い意味合いも含めて長期間の施策にしていかなければならない。安定した雇用、市も事業者であり、安定した雇用に努めている。企業は商工会議所が窓口など、企業訪問なども活用する。非正規、正規について、1億総活躍の時代の中でも、パートでの労働など色々な雇用形態の受け皿も必要なことに触れる。

委 員：目標に向かうために自分の生活について、色々な方向から項目をあげることが難しいと感じる。重複することが多いので、よくわからない。児童虐待についての現状と課題は、「異性に対するあらゆる暴力の根絶」の中に入っているのではないかと。男女共同参画の視点なので、果たしてそれが、「異性に対する」ものでよいのか解釈に悩む。

事務局：重複するので難しい。幅広い視点と男女特有な部分があることに着目して、中身に近づけるように再度検討する。

会 長：女性が活躍するには、女性の働き方を男性に近づけるのではなくて、男性を女性に近づけること。女性が働きやすい職場は男性も働きやすい。充て職が多いとか、残業が多いなど女性管理職の進出へマイナスになっているなら、男性も我慢しているのだから、解消していかなければならない。今年度若者たちのアンケートを行った結果、社長になりたい割合が少なかった。自分の生活を大切にしたい割合が高いことを、マスコミはマイナスに受け止めているように感じた。ワーク・ライフ・バランスの観点においては、家庭を大切にする若者の考えは、ますます増えていっていい考え方である。企業戦士のような働き方でなくて、家庭と仕事が両立できるような企業理念になればいい。そう働きかけていけばよいと考える。

### (3) その他

今後の予定 第3回男女共同参画推進会議 10月13日(木)

## 4 その他

男女共同参画社会をめざす伊那市民のつどい

- ・ 標語・絵手紙・写真の広報について (い～な c h) 8月10日収録
- ・ 標語等の審査会の日程について 9月26日(月)午後

## 5 閉 会